

和木小学校コミュニティスクールだより

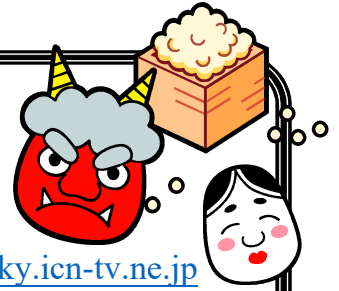
# 緑の風

令和6年・2月号

<http://www.sky.icn-tv.ne.jp/~wakisho/>

E-mail [wakisyo@sky.icn-tv.ne.jp](mailto:wakisyo@sky.icn-tv.ne.jp)

校訓 道を行くに誠実をもってせよ (何事も本気でまじめにやれ)



## 雪景色とふたつの歌

先日、久しぶりに雪が降りました。この度は、うっすら積もった程度でしたが、子どもたちは、その雪を少しずつ集めながら登校して、学校に着いた時にはソフトボールぐらいの雪玉を持っている子も何人かいました。手の冷たさを忘れて、雪が降った喜びを感じているようでした。ある児童は、校門のところに咲いているパンジーが雪をかぶっているのを見つけて、毛糸の手袋を濡らしながら全部雪をはらい落としてくれました。私は、それを見てポッと温かくなる思いでした。

ところで、私には雪で思い出す歌が2つあります。1つは、さだまさしさんの「案山子(かかし)」です。もう1つは、百人一首の中の一、光孝天皇作の「君がため 春の野に出でて 若菜摘む 我が衣手に 雪は降りつつ」という和歌です。若い頃には、これに加えてイルカさんの「なごり雪」も入っていたのですが、子どもが自分の手から巣立っていこうとしている時期の私には、「案山子」の歌詞がぴったりくるようになりました。「案山子」の歌詞に「元気であるか、街には慣れたか、友だちできたか、寂しくないか、お金はあるか、今度いつ帰る・・・銀色の毛布つけた田んぼにぼつり、置き去られて雪をかぶった案山子がひとり。おまえも都会の雪景色の中で、丁度あの案山子のように寂しい思いしてはいないか、体をこわしてはいないか・・・」というところがあります。私には、父親が都会に出た子どもを心配する心情として聞こえて共感できます。(さだまさしさんは、上京した弟を思って作詞したそうです。)

もう1つの光孝天皇の和歌「君がため 春の野に出でて 若菜摘む 我が衣手に 雪は降りつつ」は、七草の日に詠まれたもので、現代語訳すると「あなたのために、春の野に出かけて行って若菜(七草)を摘んでいる私の袖に、雪が次から次から降りかかってくる。」となります。光孝天皇が誰かに七草を送った際に添えた和歌とのことです。大切に思う相手の幸いや健康を願って七草を送ったのでしょうか。しかし、送った相手が誰なのか、男女どちらなのかも分からないのだそうです。みなさんは、誰に送ったのだと想像しますか。「君がため」というところからも相手を思う気持ちが伝わってきますね。NHKの大河ドラマで紫式部が主人公となったことから、短歌ブームが来るかも知れません。2つの歌の作られた時代はちがいますが、他者を思う気持ちが伝わってくる歌です。



## 大谷翔平選手 ありがとう!

3学期が始まってすぐ、大谷翔平選手から和木小学校にもグローブのプレゼントが届きました。いつ届くのだろうと待ちに待っていた子どもたちも大喜びです。現在は、グローブとメッセージを玄関に展示しています。地域の皆様もどうぞご覧になりいらしてください。

今後は、子どもたちがどのように使うかを学級会や代表委員会で話し合っていていきます。話し合い活動が活発になり、伝え合う力も培える良い機会を与えていただきました。子どもたちは、知恵を出し合って「大谷選手の願い」をみんなで見つけ出す方法を考えてくれることでしょう。

